

NGO-JICA 協議会の活性化について

昨年度の NGO-JICA 協議会の NGO 側コーディネーターが提案し、今後の協議会の在り方を検討していくにあたり開催した、登録 NGO¹の集いでの意見交換を踏まえ、今年度のコーディネーターで再度検討を行った結果、以下の通り、運営を改善していきたいと考えております。引き続き、NGO-JICA 協議会の活性化のため、皆さまのご協力を賜れますと幸いです。

1. 登録 NGO の集いの開催について

昨年度末、初めて登録 NGO の集いを開催したところ、現状把握や今後の方向性の共通認識を持つために有意義な機会となったため、今年度以降も事務局とコーディネーターが中心となり、年 2 回程度開催をしていく。各回の議題は以下を予定。

6 月：当該年度の運営体制の確認や、年間テーマへのインプット等

3 月：1 年の振り返りと次年度以降への申し送り事項確認等

2. 各回における議題提案について

ここ数年、NGO 側からの議題提案が減少傾向にあり、NGO-JICA 協議会の運営の在り方の見直しが必要とされている。一方で、各団体に直接関連するテーマを議題として挙げて良いのか躊躇するという声も聞こえてくるため、議題提案しやすい環境を事務局とコーディネーターが協力して作り出す。

- 上記、登録 NGO の集いの際に、情報共有し、テーマのヒアリングを行う
- 登録 NGO の ML を活用し、議題提案までは至らないお困りごと等を共有できるようにする。
⇒登録 NGO-コーディネーター間で解決できるテーマは対応し、声が多いテーマやコーディネーターの域を超えるものについては、各回での議題提案を検討する流れを作る。

3. コーディネーター選挙について

現状、任期 3 年にも関わらず、各年において選挙を実施している。4 月～5 月の年度初めに、年間テーマの設定等、議論する時間をより確保するためにも、選挙は 3 年毎とし、任期中での交代についての手続きを要項上に明文化することで対応する。

4. 協議会当日の運営について

- 逐語議事録について

協議会における議論の活性化を考えた際に、逐語議事録があることによって発言を控える人はいる。また、議題としても取り上げ難いものが出てくる場合がある。

⇒試行的に 2017 年度第 1 回において、逐語議事録を廃止し、これに代えて基本的な議論の流れ

¹ 登録 NGO : NGO-JICA 協議会に関する NGO 側の方針確認、議題案や議論の方向性について積極的な役割を担う。

や合意事項を踏まえた議事録を作成することにする。第 2 回目以降については、今回の試行の結果を NGO-JICA のコーディネーター間でレビューし、の運用について検討を行う。

- 席次の自由化・名札配布・休憩時間の拡張について

双方が向き合う形の席次から、自由席とし、名札を付けることによって、活発な意見交換ができる場作りを行う。また、協議事項と報告事項の間の休憩時間を長くすることで、協議会の時間以外での出会いの場の創出、NGO-JICA 間でのコミュニケーションの活性化を行う。

以上